

水稻の今後の栽培管理について

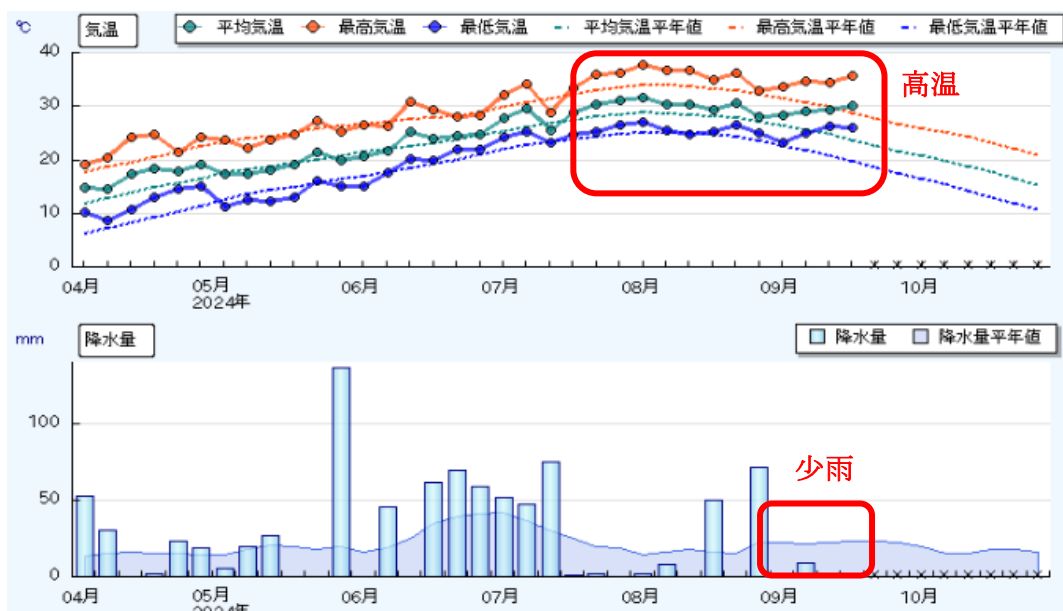
東備農業普及指導センター

本年は、7月下旬から異常な高温が続いており、高温障害による白未熟粒の発生による玄米品質の低下が懸念されます。

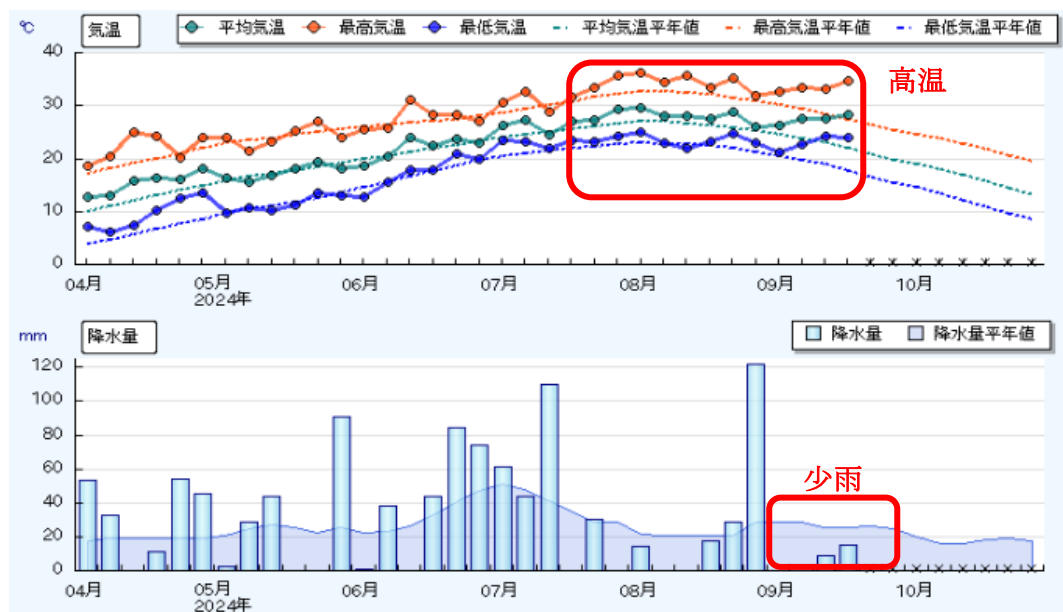
これから水稻の中生品種の収穫が本格的に始まりますが、刈り遅れとなると玄米品質が低下するため、適期収穫に努めて品質低下を防ぐ管理を徹底してください。

1 これまでの気象経過

- ・7月下旬から高温で推移し、9月中旬まで続いている。9月以降は少雨傾向である。
〈岡山市の気象データ（R6年4月～）〉



〈津山市の気象データ（R6年4月～）〉



2 病害虫の発生状況

(1) 「トビイロウンカ」に係る病害虫発生予察情報

- 防疫情報（令和6年9月25日発表）
9月下旬に「トビイロウンカ」による坪枯れが、数件確認されたが被害は限定的である。

3 生育状況等

(1) 生育状況

- 中生品種のうち、「きぬむすめ」は8月中旬に出穂が始まり、「ヒノヒカリ」は8月下旬に出穂が始まった。出穂後の高温により成熟がやや早まり、「きぬむすめ」では、一部で収穫が始まっており、「ヒノヒカリ」も黄熟期となっている。
- 晩生品種は、9月上旬に出穂が始まり、乳熟期～糊熟期となっている。

(2) 高温障害

- 中生品種は、出穂期から高温で推移したため、高温障害による白未熟粒の発生が懸念される。
- 「ヒノヒカリ」については、出穂後25日間の日平均気温の平均値が25℃以上になると白未熟粒の発生率が増加するが、本年度は岡山市で28.8℃以上となっている。
- 「きぬむすめ」については、出穂後20日間の日平均気温の平均値が26℃以上になると白未熟粒の発生率が増加するが、本年度は岡山市で28.8℃、津山市では27.0℃以上となっている。

【「ヒノヒカリ」の出穂後25日間の日平均気温の平均値】

出穂期	出穂後25日間の 日平均気温の平均値(℃) [岡山市]
8/22	29.0
8/24	28.9
8/26	28.9
8/28	28.8

【「きぬむすめ」の出穂後20日間の日平均気温の平均値】

出穂期	出穂後20日間の 日平均気温の平均値(℃) [岡山市]	出穂後20日間の 日平均気温の平均値(℃) [津山市]
8/15	29.1	27.1
8/17	28.8	27.0
8/19	28.8	27.0
8/21	28.9	27.0

4 今後の栽培管理の留意点

(1) 高温障害対策

- 早期落水は、未熟粒や屑米、胴割れ米、茶米の増加につながるため、出穂後30日頃を目安にできるだけ落水を遅らせる。
- 刈り遅れは、胴割れ米や茶米等が増加して玄米品質低下の原因となるため、適期収穫に努める。
- 登熟期間が高温で経過しているため、予想以上に成熟期が前進することがあるので、出穂後の積算気温等を参考にするとともに、登熟の進み具合（青味籾率）を随時確認して、早めに収穫作業の準備を行う。

【品種別収穫適期の目安（水稻・麦類・大豆栽培指針）】

品 種	きぬむすめ	ヒノヒカリ	朝 日	アケボノ
出穂後の日数（日）	38～45		40～50	
積算気温（℃）	950～1,100		900～1,100	
青み比率（％）	15～10			

（２）トビイロウンカ対策

- ・収穫の１か月以上前に、10 頭以上寄生している株が観察される場合は、速やかに粉剤または液剤で追加防除を行う。
- ・薬剤防除にあたっては、農薬使用基準（使用時期や使用回数等）を確認して適切な薬剤散布を行う。また、薬剤が株元まで十分に到達するよう留意する。
- ・坪枯れが発生した場合は可能な限り収穫を早め、倒伏を防ぐとともに、刈り分け等を行う。

参考

【令和６年の平均気温と降水量（８月中旬～９月中旬）】

	岡 山		津 山	
	平均気温(平年差) (℃)	降水量(平年比) (mm)	平均気温(平年差) (℃)	降水量(平年比) (mm)
8月中旬	29.8 (+1.5)	49 (154%)	27.8 (+1.2)	18 (46%)
下旬	29.2 (+1.8)	72 (217%)	27.3 (+1.8)	151 (330%)
9月上旬	28.7 (+2.8)	9 (20%)	26.9 (+2.8)	0 (0%)
中旬	29.8 (+5.7)	1 (1%)	27.8 (+5.3)	25 (52%)